

滑稽俳句は生活の詩

杉崎弘明
(第四回滑稽俳句大賞 次点受賞)

滑稽俳句を俳句の一ジャンルとして見た場合、作品に使われる季語には、ある種の傾向があるのではないかと以前から興味を抱いていた。此の度の滑稽俳句入賞を機会に、今後の句作の参考になればと、勝手ながら第三回と第四回の入賞作品一八〇句を拝借して、分析してみる事を思い立った。

角川書店合本歳時記第三版の目次に記載されている季語（傍題を除く）二五七五語を、縦軸に季の配列（春・夏・秋・冬・新年）、横軸に季語の配列（時候・天文・地理・生活・行事・動物・植物）に置き変えるべく、マトリックス図を作成。それぞれの季語を該当する升目に落とし込み、併せて入賞作品一八〇句に使われた季語も同様にして併記した。

さて、この分類図から見ると歳時記の夏の植物は二四五、夏の生活は二一一、冬の生活は二〇九を数え、いずれも総季語数の約一〇%づつを占め、ベスト3となる。季の配列の合計で見ると夏は七二七と圧倒的に多い。季語の配列では、生活が七三二、植物が六九八で、それぞれ三〇%近くを占める。動物は三二九と少なく、植物の半分にも満たない。

滑稽俳句での季語の分布はどうかと言うと、冬の生活、夏の動物はそれぞれ二十、夏の生活が十四であった。季の配列では夏五三、冬と秋がそれぞれ四三と四二、季語の配列では生活六二、動物四十であった。滑稽俳句のサンプル数が少ないので、結論は尚早であるが、それでも傾向性は伺えるであろう。季の配列に関しては多少の違いはあるにしても、歳時記にほ

ば比例しているのは頷ける。しかし、季語の配列で見ると生活と動物が極端に多い。時候・天文・地理では、合計で僅か三七、行事も一七、植物たるや一九である。

俳句では季語そのものを主題とする場合と季語が他を補完するような斡旋的役割を担う場合があるが、ここではそれを区分していない事をご承知願いたい。

それでは、「滑稽」と言う言葉の意味は何だろうか。広辞苑によれば、①わらいをおもしろおかしく、巧みに言いなすこと。転じて、おどけ、道化、諧謔。②いかにもばかばかしく、おかしいこととある。この説明の中には、「おかしい」という言葉が二度使われている。更に「おかしい」と言う語を手繰ると、①「可笑しい」とも当てる。笑いを誘われるようなさま。②物事を観照し評価する気持ちで「あわれ」が感傷性を含むのに対して、より客観的に賞美する感情と記載され、それぞれを細かく分類して更に具体的に詳述している。

我々人間の生活は、生きて行くための絶対的手段であるが、それを真っ当にすればするほど自己矛盾に陥り、傍から見れば可笑しくて滑稽に映るようである。従って、滑稽俳句に生活の季語が多用され、加えて吾等人間と類似する動物の季語が多いことに納得させられる。言い換えれば、滑稽俳句は「人間生活を詠う詩」であると言って過言で無い事を、データは示している。今後も生活・動物を中心に滑稽俳句の傑作が百出するであろうが、時候・天文・地理の大自然、或は植物の季語に目を向けた新機軸の滑稽俳句を期待したいし、私自身もトライして見たいと考えているが、如何なものであろうか。

滑稽俳句に使用された季語の分類 (歳時記との相関による)

季語の配列 季の配列	時候	天文	地理	生活	行事	動物	植物	合計
	春	39	37	24	116	78	75	183
	2	1	0	9	3	6	2	23(13%)
夏	36	36	19	211(8%)	53	127	245(10%)	727(28%)
	6	5	1	14	2	20	5	53(30%)
秋	91	41	15	86	63	65	194	555(22%)
	5	3	1	11	4	9	9	42(24%)
冬	48	39	24	209(8%)	72	54	68	514(20%)
	4	3	3	20	5	5	3	43(25%)
新年	24	12	6	110	59	8	8	227(9%)
	3	0	0	8	3	0	0	14(8%)
合計	238(9%)	165(6%)	88(3%)	732(28%)	325(13%)	329(13%)	698(27%)	2575(100%)
	20(11%)	12(7%)	5(3%)	62(35%)	17(10%)	40(23%)	19(11%)	175(100%)

* %は構成比。

* 黒数字は歳時記の語数。赤字は滑稽俳句 175 句

(5 句は季語が使用されず) に使用された語数。